来月スイスでMTB世界選手権

〈帯農高3年〉十勝初 山本日本代表

クロスカントリー ジュニアクラス出場

欧州の強敵倒せ！

マウンテンバイク（MTB）の世界選手権（スイス、ルガノ・9月3―7日）に、道内を代表する若手ホープ、山本幸平（帯農高3年）＝キャノンデールカマダ＝が、管内から初めて日本代表に選ばれた。出場するのは起伏のある山岳・丘陵地を走る長距離レースのクロスカントリーで、18歳以下のジュニアクラスだ。180キロ、69キロの恵まれた体格を生かし、欧州を中心とした強敵たちに立ち向かう。（岡部彰広）

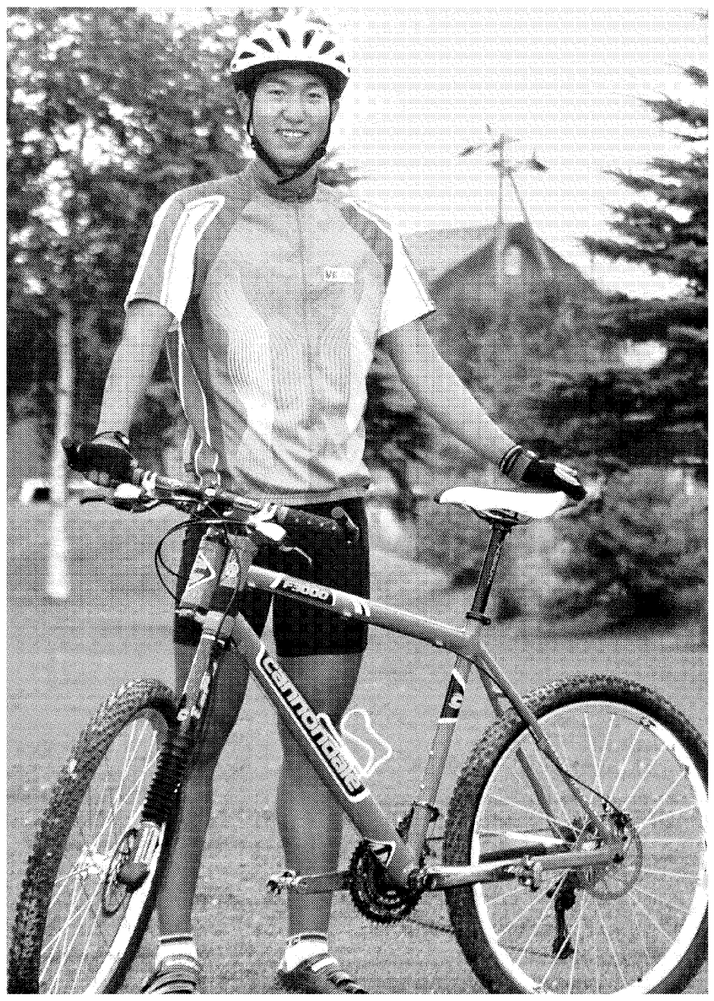
選考会となった全日本選手権（7月19、20日・石川県）ジュニアクラスは、優勝候補として同じ北海道の小野寺健（GASPANICSP）とトップを争った。最終周回のゴール前500メートルでスパートして一時はトップを独走したが、スピードが乗った下りで同じコースを走っていた一般参加の選手に接触、大転倒して2位に終わった。代表枠は当初1人だったため一時は今季一番の目標だった世界選手権をあきらめたが、選考には内容や実力が加味されて2人枠となり出場を決めた。

国内MTBトップクラスの兄和弘（20）＝キャノンデールジャパン、帯三条高出、札幌在住＝とともに10年以上の競技歴を持ち、管内では強豪MTB兄弟として有名。現在は一緒に国内最高峰のジャパンシリーズエリートクラスに最年少選手として参戦している。

ロードレースでも昨年のツール・ド・北海道市民レース然別湖―清水で一般を含め貫録の優勝など実績を残し、今年はインターハイ道予選で初めての競輪場バンク経験ながら三千メートル個人追い抜き2位と適応能力の高さを見せている。「我慢強さ、集中力、勝負強さはすごい」と兄も舌を巻くセンスが持ち味だ。

世界に向け、練習はいつもに増して過酷を極める。同じ全日本選手権のU23クラスで優勝候補ながら、パンクで無念のリタイアをした兄がコーチ役となり、先月31日から4日まで1日100キロを超えるロード走破、そして5日から「外国勢のスピードへの対応と、レース中に体力をいかに速く回復させるか」（兄）と十勝四駆ランド（音更）でインターバルトレーニングを積んでいる。

山本は「挑戦者として走るから、緊張とかはない。楽しみなだけ。世界の走りや練習方法を兄に土産にしたい」と気持ちは高鳴るばかり。「同年代とどこまで走れるのか。もちろん最初からトップについていって目立ってくる。そうすることで新たなページが開かれる」。今回の経験が来季への大きなステップとなるのは間違いない。



世界選手権出場を決め、「挑戦者として走る。目立ってくる」と大舞台への意欲に燃える山本幸平＝キャノンデールカマダ、帯農高3年＝（中山彩撮影）

＜今季の主な成績＞
▽ジャパンシリーズ
（エリートクラス最年少出場）
第1戦　32位
第2戦　20位
第3戦　出場せず
第4戦　出場せず
第5戦　25位
第6戦　出場せず
※ポイントランキング（6戦終了）40位
▽インターハイ道予選
3000メートル個人追い抜き　2位
1000メートルタイムトライアル　4位
▽全日本選手権
ジュニアクラス　2位

かちまいスポーツ

スポーツの日程・記録は▼FAX0155-25-2700　掲載写真の申し込みは▼TEL0120-25-9410

緑ケ丘キングファイターズ大逆転V

財団旗少年軟式野球

4点差追い付き特別延長制す

軟式野球の第18回財団旗少年大会（帯広市文化スポーツ振興財団主催）最終日は5日、帯広の森野球場で3試合を行った。決勝は今年の全道大会帯広支部大会を制した緑ケ丘キングファイターズが最終回の土壇場に3安打を集めて4点差を追いつき、特別延長の末、東フェニックスを8―6で振り切り大逆転で優勝を果たした。（岡部彰広）

◇決勝
緑ケ丘キングファイターズ　1000043　8
東フェニックス　5000001　6
（六回時間切れ、七回特別延長）
▽二塁打＝丸尾（緑）西島大（東）
▽審判＝伊藤、加藤、北田、平賀

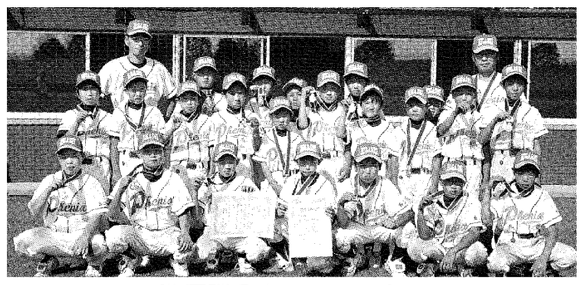
4点を追う緑ケ丘は六回、先頭の五十嵐が敵失で出塁し、熊谷のバントヒットで二、三塁とし、吉田準の内野ゴロで安打、盗塁で二、三塁とし、吉田準の内野ゴロでまず1点。二死後、丸尾が左越え二塁打を放ち2点差とし、さらに三盗に川嶋の内野安打と送球ミス、高田の敵失で一気に同点に追いついた。無死満塁から始まる特別延長の七回は、竹内のスクイズ（内野安打）に五十嵐の押し出し四球、熊谷のスクイズで3点を勝ち越した。

エース吉田準は制球が乱れながらも内野の堅い守りに支えられ二回から立ち直ったのが勝因。

東フェニックスは初回一死から松谷、嘉藤の連続四球に西部の内野安打で満塁とし、林の右前打や西嶋の左翼線二塁打、橋本の中前適時打などで一気に5点を奪い、試合のペースを握った。しかし、六回に突然守備が崩れて3失策し、同点に追いつかれた。先発投手の嘉藤が、五回まで緑ケ丘打線をわずか2安打に抑えていただけに、惜しい試合を逃した。

【決勝・緑ケ丘キングファイターズ―東フェニックス】緑ケ丘は特別延長の七回無死満塁から、竹内博昭がスクイズを決め6―5と勝ち越す。三走川嶋

優勝の緑ケ丘キングファイターズ



準優勝の東フェニックス

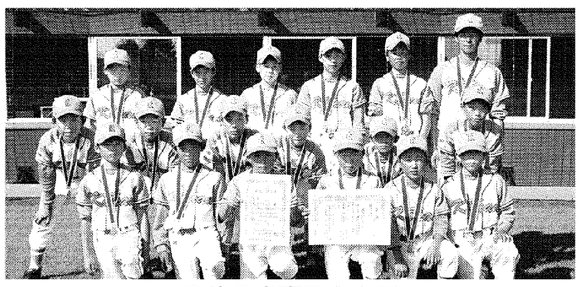
【緑ケ丘キングファイターズ】

		打	安	点	振	球
④	五十嵐	3	1	1	0	1
⑨	熊谷	2	1	1	0	1
①	吉田準	4	0	1	0	0
⑥	伊藤	3	0	0	0	0
⑧	丸尾	3	1	1	0	0
②	川嶋	3	2	0	1	0
⑦	高田	3	0	0	1	0
③	吉田健	1	0	0	1	0
3	宇野祐	2	0	0	1	0
⑤	竹内	3	1	1	0	0
犠併残盗失						
1	0	4	1	0	1	
		27	6	5	4	2

【東フェニックス】

		打	安	点	振	球
⑤	山川	4	0	0	0	0
⑥	松谷	2	0	1	1	2
①	嘉藤	3	0	0	0	1
⑦	西部	4	1	0	0	0
④	林	2	1	1	0	2
②	安田	3	0	0	1	0
⑧	3西嶋大	3	2	2	0	0
③	橋本圭	3	2	1	0	0
R8	国澤	0	0	0	0	0
⑨	橋本知	3	1	0	0	0
犠併残盗失						
0	1	8	3	3		
		27	7	5	2	5

3位の豊成ファイターズ



3位の光南アトムズ

緑ケ丘

魅せた驚異の底力

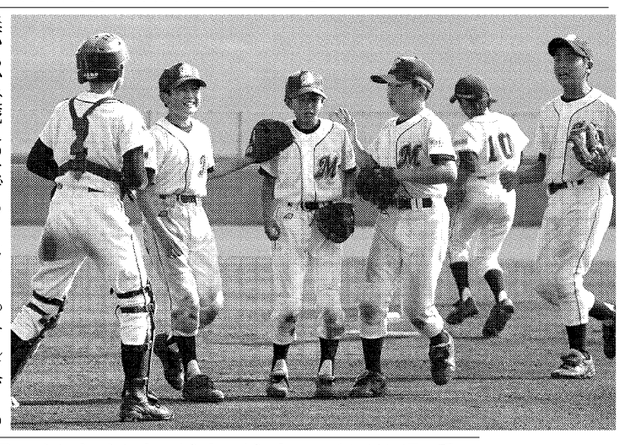
劇的勝利に歓喜の渦

今季は全道帯広支部予選を制し、全日本学童大会北北海道大会3位の成績を収めている緑ケ丘キングファイターズが大逆転勝利を飾った。「全道大会に出たことなどが自信になったんでしょう。粘り強くなった」と鈴木尉浩コーチは意地を見せた選手たちに目を細めた。

エースの吉田準主将（6年）は、準決勝で4回62球を投げていた影響で、立ち上がりから制球難だった。2つの暴投に2四球で5失点した。

その後も調子は戻らなかったが、川嶋潤捕手（6年）がワンバウンドを幾度も体を張って止めたり、外角中心の懸命のリードをすれば、守備もわずか1失策と支えた。「ずっとゼロで抑えていれば流れが来る」（鈴木コーチ）と信じていたナインは、その時が来るまでじっと我慢の守りをしていた。

奇跡の勝利にナインもベンチも応援席も大歓喜。「全道に出たんだから、だらしない負け方はしたくなかった。ぼくはみんなに迷惑かけたけど、みんな苦しい練習を思い出して、成果を発揮してくれた。それにしてもこんなに集中力を出すとは」。吉田準主将は驚きながらも、次の大会でさらに、まだ知らぬ自分たちの底力の発揮をチームメートとともに目指す。



逆転で優勝を決め、健闘をたたえ合う緑ケ丘キングファイターズナイン

丸尾慶樹

土壇場で力発揮

○…「最後の打者になるかもしれないから、何も考えずに振った」。最終回に3点を追う二死三塁から、後続につなげる流し打ちの左越え二塁打を放った緑ケ丘キングファイターズの丸尾慶樹（6年）は、興奮気味に試合を振り返った。

チーム一の身長（159センチ）を生かしたパワーヒッター。それまで2つの一塁ゴロでがっくりきていたが、土壇場で力を発揮した。「打ったのは外角高め。逆らわずに打てた」と満足げ。「役目を果たせて良かった」とにっこり。

無心で振った

緩急自在の投球光る

敗戦にも自分らしさ

○…東フェニックスは決勝で背番号6の嘉藤央将（6年）が先発した。緩急をつけながら丁寧な投球で、五回まで散発2安打と緑ケ丘打線を寄せ付けなかった。

六回に味方のエラーをきっかけに4点を失ったが、「自分の力を出し切れた。打たせて取ることができた」とさわやか。ただ「負けたことは悔しいので次は緑ケ丘を倒したい」と、雪辱に燃えていた。

◇準決勝
緑ケ丘キングファイターズ　0600001　7
豊成ファイターズ　0000000　0
（六回時間切れ）
【緑】吉田準、五十嵐―川嶋
【豊】下川―久保
▽審判＝平賀、高橋、作田、伊藤

東フェニックス　3000000　3
光南アトムズ　0000000　0
（五回時間切れ）
【東】松谷―安田
【光】佐藤―松井
▽二塁打＝林、嘉藤（東）
▽審判＝北田、作田、高橋、加藤

クラブ対抗野球

勝興寺など準決勝進出

6日は準々決勝4試合を行い、勝興寺、SG ROYAL、千代田デンソーアウトサイダース、ベストスポーツが準決勝進出を決めた。7日は十勝川河川敷球場で準決勝が行う。

☆伏古別球場（6日）

勝興寺　4030000　7
COCOMART　0000000　0
（五回コールド）
【勝】保木―今野
【C】田村、安達―安達、阿曽、井村
▽三塁打＝堀、大和田、今野（勝）
▽二塁打＝鈴木（勝）
▽審判＝伊藤工、鈴木、藤森

☆十勝川A球場
SG ROYAL　0000040　4
T・Tまんぼう　0000000　0
（六回時間切れ）
【S】堀川、和賀―小谷
【T】水崎―石丸
▽本塁打＝沢村（S）
▽三塁打＝沢村、玉置（S）
▽審判＝高松、加藤、伊藤宣

☆十勝川B球場
VERSUS　0000000　0
千代田デンソーアウトサイダース　2000500×　7
（五回コールド）
【V】中山、角田―島田
【千】米津―小西
▽本塁打＝真本（千）
▽三塁打＝沢村（千）
▽二塁打＝沢村、小西、米津（千）
▽審判＝佐藤進、伊藤泰、高橋正

☆十勝川C球場
教員クラブ　0000200　2
ベストスポーツ　3100000×　4
（六回時間切れ）
【教】山ノ内―廣本
【ベ】佐々木登、横山泰―長谷川、三浦
▽三塁打＝青田、平井（ベ）
▽二塁打＝加藤（教）長谷川（ベ）
▽審判＝高橋政、作田、北田

〈7日の試合〉
（午前5時試合開始）
▽十勝川B＝ベストスポーツ―千代田デンソーアウトサイダース
▽十勝川C＝SG ROYAL―勝興寺

帯広選手団決まる

日韓高校ホッケー親善交流

清水高9人など31人

日韓の高校生選手がアイスホッケーを通じ交流を深める日韓共同未来プロジェクト第11回帯広・韓国アイスホッケー親善交流大会（18―21日・韓国ソウル市、文部科学省、同大会実行委員会主催）の帯広選手団（31人）が、このほど決まった。

選手は同大会実行委員会や管内各校監督らによって選出された3校20人。学校別では清水高9人、白樺学園高5人、江陵高6人。団長は大山石松帯広アイスホッケー連盟会長、監督は菅野良則同連盟理事長。

大会は1993年の韓国開催から帯広と交互に行われている。今年度から文部科学省が推進する日韓スポーツ交流事業の認定を受けた。選手団は11日に結団式を行い、18日午前7時に出発。19、20の両日に試合を行い、21日午後5時に帰帯する予定。

帯広選手団は次の通り。

▽団長＝大山石松（帯広アイスホッケー連盟会長）▽監督＝菅野良則（同連盟理事長）▽コーチ＝高橋仙人（清水高監督）、佐々木孝（帯三条高監督）▽総務＝太田忠紀（同連盟競技委員長）、星野雄二（同連盟総務委員長）、林雅也、城戸秀典（以上帯広市文化スポーツ振興財団）▽事務局＝下森法人（市スポーツ課係長）、村井和徳（同課主事）▽通訳＝申仁先（帯畜大）

◇選手＝新井健太郎（主将）、我妻慶祐、山下真一朗、金山豊和、谷貴規、沼田貢治・以上3年、今城和智、金塚佑輔・菅原遼・以上2年＝以上清水高、鈴木崇嗣、菊地健太郎、稲葉洋、東聖彦（副将）、垂井拓也・以上3年＝以上白樺学園高、秋戸博光、高畠泰樹（副将）、地久間祐亮・以上3年、若宮隼人、安藤祥太、三原勇人・以上1年＝以上江陵高

芽室4強入り

北電カップ全道少年団サッカー

【旭川】サッカーの北電カップ第35回全道少年団大会（道サッカー協会など主催）3日目は5日、旭川市富沢多目的競技場で決勝トーナメント2回戦までを行い、芽室がベスト4入りを決めた。

芽室は1回戦で富原FCをI―0で破り、2回戦の旭川グリン・ベアー・ボーイズに0―0のPK戦の末、5―4で競り勝った。最終日6日午前9時半からの準決勝で永山南と決勝進出を懸けて対戦した。大空は1回戦でフォーザに0―1で惜敗した。

（5日・関係分）
◇決勝トーナメント▽1回戦
フォーザ　1（0―0、1―0）0　大空
芽室　1（0―0、1―0）0　富原FC
▽2回戦
芽室　0（0―0、0―0）0　旭川グリン・ベアー・ボーイズ
（PK5―4）

はんてん すぎうら 24-2323

ソフィア・ゾリステン～名曲の花束

十勝毎日新聞社は、NPO音更町文化事業協会と共催で、「ソフィア・ゾリステン～名曲の花束」を開催します。四十数年にわたる歴史と伝統を誇る、ブルガリアを代表する弦楽オーケストラです。実力派の精鋭を集めた確かな演奏は、世界的に高い評価を得ています。優美なステージをご期待ください。

▽日時　10月17日（金）午後6時半開場　午後7時開演
▽会場　音更町文化センター大ホール
▽入場料　全席指定3500円（税込み）
▽指揮　プラメン・デュロフ
▽曲目　J・S・バッハ「G線上のアリア」、マスネ「タイスの瞑想曲」、クライスラー「愛の喜び」ほか
▽前売り券取り扱い　音更町文化センター、勝毎サロン、MINAステーション、藤丸チケットぴあほか
▽問い合わせ　音更町文化センター☎0155・31・5215
主催　NPO音更町文化事業協会、十勝毎日新聞社